

ところ会 OP 早春の所沢を歩く

(所沢の七福神の一部を巡る)

記

■日 時：令和2年4月5日(木) 9時25分集合

■集合場所：所沢駅西口、西武園遊園地行バス乗り場(乗場-2)

■見学場所及び時間：コース全長 約7km

所沢駅西口(西武バス利用 9:33 発) ⇒ 勢揃橋 ⇒ 長久寺(大黒天) ⇒ 八国山・将軍塚 ⇒ 八国公園 ⇒ 仏眼寺(福禄寿) ⇒ 鳩峰八幡社 ⇒ 久米水天宮 ⇒ 光蔵寺(寿老人) ⇒ 本覚院(布袋尊) ⇒ ドレミの丘公園 ⇒ 荒幡富士 ⇒ 海蔵寺(毘沙門天) ⇒ 下山口駅(15:00頃解散予定)

■昼食 バーベキューあらはた 04-2924-62525

<https://tabelog.com/saitama/A1106/A110601/11000464/>

メニュー：焼肉サービスランチ(1500円・税込)

■散策先簡単ガイド

<勢揃橋>

「勢揃橋」は鎌倉時代末期に、新田義貞らが幕府を倒さんと挙兵した際、群馬から鎌倉目指して鎌倉街道を南下し、所沢周辺で幕府軍と激突した際に、ここで義貞の軍をここで勢揃いさせたと伝えられる橋で、柳瀬川(旧久米川)に架かっています。



<長久寺>・・大黒天

長久寺は藤沢の遊行寺を総本山とする時宗の寺院です。時宗は、鎌倉時代に一遍上人が開いた念仏の宗派です。長久寺の開山は玖阿上人といい、現在東村山の徳蔵寺にある「元弘の板碑」を建てた人といわれています。



<八国山緑地>

八国山緑地は、なだらかに広がる狭山丘陵の東端に位置しています。園内全体がコナラ、クヌギ等の雑木林になっており、さまざまな野鳥や昆虫が見られます。また、今なお江戸時代の地形や道筋などが残っており、当時の姿を今に伝えています。



八国山緑地の名は、上野、下野、常陸、安房、相模、駿河、信濃、甲斐の八力国の山々が眺望できたことに由来する、と言われていています。このあたりは、鎌倉時代の古戦場といわれ、山頂には、源氏の武将・新田義貞の鎌倉攻めを偲ぶ將軍塚が建立されています。

<將軍塚>

所沢市と東京都との境に位置する八国山にある史跡で、かつての鎌倉街道上道のルート上にあり、元弘3年(1333)、鎌倉幕府倒幕に向け挙兵した新田義貞がこの塚に旗を立てたことが名前の由来になっています。



<佛眼寺>・・福祿寿

真言宗豊山派寺院の佛眼寺は、王禅山釋迦院と号し、創建年代等是不詳ながら、延暦21年(802)の建立とも伝えられ、当村出身の圓宥(天正18年1590年寂)が元龜年間(1570-1573)に中興したといいます。江戸時代には鳩峯八幡神社の別当を勤めていたといい、奥多摩新四国霊場八十八ヶ所53番です。



<鳩峰八幡社>

神社本殿は県の指定文化財。新田義貞が戦勝祈願に立ち寄り、兜をかけたと伝わる「兜掛けの松」があります。



<久米水天宮>

鳩峰八幡社の摂社の1つで、鳩峰八幡社の境内の南側の一段下、石段を下がったところに位置します。祭神は安徳天皇(あんとくてんのう)で、地名を冠して「久米水天宮」と呼ばれています。例大祭は1月5日で、だるま市が開かれる。この際には市内から初詣客とともに人が押し寄せ、にぎわいを見せます。



＜光蔵寺＞・・寿老人

真言宗豊山派寺院の光蔵寺は、荒幡山無量院と号し、創建年代等
は不詳ながら、寛和(985-987)・貞和(1345-1349)・康安(1361)・
永和(1375-1379)の記銘がある古碑があったといえます。年不詳
ながら奥富(現狭山市)より当地へ移転、法印賢宥(寛永19年1642
年寂)が中興したといえます。



＜ドレミの丘公園＞

市の南に位置するこの公園は、荒幡富士市民の森と一体
となった良好な自然環境を有し、荒幡小学校に隣接し所沢駅
周辺から狭山湖周辺までを一望できる景観地です。

名称の由来は、この丘に隣接する荒幡小学校の児童の皆さん
が親しみをこめて「ドレミの丘」と呼んでいたことから名
づけられたものです。



＜荒幡富士＞

荒幡の富士は人工の富士山で、明治17年2月から村に住む
青年たちが中心となって、近隣の村からも信徒が加わって、延
べ1万人が参加して、およそ15年の歳月をかけて、明治32
年に、約10mにもおよぶ荒幡の富士は完成しました。



＜本覚院＞・・布袋尊

真言宗豊山派寺院の本覚院は、月桂山喜福寺と号します。本覚院
は、阿闍梨法印法円が庚暦2年(1380年)に開創、大僧都法印惠
静・賢慶(元和6年寂)が中興したといえます。現在の住職まで三
十代に亘って継承されてきた古刹です。



＜海蔵寺＞・・毘沙門天

真言宗豊山派寺院の海蔵寺は、川嶋山釋迦院と号します。海蔵寺
の創建年代等不詳ながら、新編武蔵風土記稿に「川嶋山釋迦院と
號す、新義真言宗、多磨郡中藤村真福寺末、本尊釋迦を安ず」とあ
ります。



参考に

今回訪問出来なった二寺院について、簡単に説明します。

<持明院>・・恵比寿天

真言宗豊山派寺院の持明院は創建年代等は不詳ながら延喜年間(901-923)から康永年間(1342-1344)にかけての創建と伝えられ、大僧都賢心が天和年間(1681-1683)に中興したといえます。



<永源寺>・・弁財天

曹洞宗寺院の永源寺は、大龍山と号し、久米に位置する、南北朝時代に創建された曹洞宗の古刹です。永源寺は、大石信重が南北朝時代に創建、由木城主大石定久の叔父で由木永林寺を開山した一種長純大和尚(永禄8年1565年寂)が開山したといえます。山門や伽藍は閑静なたたずまいにして、良好な景観を形成しています。延命・子育て地蔵にお参りする人も多く、境内の雪割草も親しまれています。弁財天(堂)は永源寺から北方面へ30m程のところにあります。



持明院の民話

<河童のわび証文>

柳瀬川は、北秋津にある持明院のすぐ南で深い淵になっていて、曼荼羅淵(まんだらぶち)と呼ばれていました。

ここに、1匹の河童が住んでいました。この河童は、毎年夏になると、川底から続いている穴を通って笹井(狭山市水富)や伊草(比企郡川島町)に住む河童に贈り物を届けることになっていました。その贈り物とは、人間の肝だったのです。

河童は夏になると川に水浴びにくる人間をおそって肝を抜いていましたが、その話が広まると、もう誰もこの淵に近づかなくなりました。

ある日のこと、久米に住んでいる一人の馬方が、川岸の草むらに馬をつないでおきました。すると突然、馬の悲鳴が聞こえてきました。驚いた馬方が駆けつけてみると、なんと馬の腹に河童が食いついていたのです。人間の肝が手に入らず、困りはてた河童は、馬の肝を取ろうとしたのでした。

とうとう捕まってしまった河童は持明院に連れて行かれ、お坊さんに懇々と説教されました。そして、二度とこの土地の人に悪いことをしないと内容の証文を書いてやっと許してもらいました。こうして、この淵では河童が悪さをする事はなくなりました。

この河童の詫び証文は、永い間、持明院に伝えられていたそうですが、残念なことに火事で焼けてしまったそうです。

